

神戸空襲を忘れない いのちと平和の碑

刻 銘 追 加 式

と き／2024年6月2日（日）午前10時
ところ／大倉山公園内「神戸空襲の碑」の前広場



2013年8月15日 除幕式

神戸空襲を記録する会

〒657-0051 神戸市灘区八幡町4-9-22 (公財)神戸学生青年センター気付
TEL (078) 891-3018
FAX (078) 891-3019



神戸空襲を忘れない いのちと平和の碑 刻銘追加式

式次第

- 1 開 会
 - 2 黙 祷
 - 3 挨拶 神戸空襲を記録する会 岡村隆弘
 - 4 銘板取付け 遺族代表
 - 5 遺族代表挨拶
 - 6 紙芝居「愛犬はなのお話」 県立神戸鈴蘭台高校福祉活動部
 - 7 献 花 参加者一同
 - 8 閉会挨拶 神戸空襲を記録する会 小城智子
- 司会・進行 神戸空襲を記録する会 馬場 敦子

碑 文

アジア・太平洋戦争の末期、太平洋の島に基地を設置したアメリカ軍は、B29爆撃機による航空部隊を編成し、1945（昭和20）年2月4日、3月17日、5月11日、6月5日、8月6日など、神戸の市街地や工場に対し、空から大規模な爆撃をくり返しました。

その多くは、街を焼き尽くすために、焼夷弾を用いたものでした。また神戸港の沖への機雷や模擬原爆の投下もおこなわれました。

このように、神戸市民のいのちとくらしが無差別に破壊されたのです。たび重なる空襲によって、神戸の街は一面焼け野原となり、8000人をこえる市民が亡くなられたといわれています。また、神戸は多くの人びとが行き来し、さまざまな出身地の人びとが住む街であり、戦争の末期には徴用された労働者やアメリカなどの連合軍の捕虜もいました。

「神戸空襲を記録する会」は、神戸空襲の事実を心に刻み、次世代の人びとに伝える取り組みを進めてきました。ここに私たちは、世界平和を願い、空襲死没者の名簿を収集し、お名前を記した碑を建立いたしました。

2013年8月15日

神戸空襲を記録する会



刻銘追加式によせて

神戸空襲を記録する会代表 岡村 隆弘

2022年2月24日に、ロシア軍によるウクライナ侵攻に続き、2023年10月に始まったイスラエルのガザへの攻撃は、共に終結が見通せない状態で、多くの市民、子どもたちの命が奪われ続けています。79年前この神戸の地でも空襲により多くの市民のかけがえのない命が奪われました。私たちは、1946年につくられた「日本国憲法」のもと、「戦争をしない国民」であることを誓い、「平和を希求する」という、強い決意を持ち、戦後79年にわたり平和国家としての道を歩んできました。しかし、今、世界と私たちはまるで、過去を忘れたかのように、再び対立と戦争の道を進もうとしています。

ドイツ連邦共和国(旧西ドイツ)の大統領であったヴァイツゼッカー氏はドイツ敗戦40年にあたる1985年5月8日、連邦議会演説「荒野の40年」の一節で、「5月8日は心に刻む日であります。心に刻むというのは、ある出来事が自らの内面の一部となるよう、これを信誠かつ純粋に思い浮かべることであります。そのためには、われわれが真実を求めることが大いに必要とされます。…」と述べたうえで、「…問題は過去を克服することではありません、さようなことができるわけはありません、後になって過去を変えたり、起こらなかったことにするわけにはまいりません。しかし、過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となります。非人間的な行為を心に刻もうとしない者は、またそうした危険に陥りやすいのです。」と述べています。

「神戸空襲を忘れない いのちと平和の碑」の除幕式で前代表の中田政子氏は、「わずかの字の向こうに、ひとつの命があります。幼児を残して逝かなければならなかった母親の悲しみがあります。想像してみてください。この碑の後の空白の部分眺めて想像してください。一人一人の命を大切に市民になりたいと思います。国民になりたいと思います。この場所が、若い世代にいのちと平和の大切さを伝え、再び戦火に包まれることがないように平和を願う場になりますよう願ってやみません。…」と述べられています。

自然災害では、地域の言い伝えにより難を逃れ、命が守られてきた歴史もあります。しかし、戦争から「いのちと平和」を守るためには、「過去に対して目を閉ざさず、誠意をもって向き合い、純粋に想像すること」でしか守ることはできません。

今回36名の方のお名前を碑に刻ませて頂きました。私たちは、刻ませていただいたお一人お一人のお名前とお名前を刻むために残された余白の意味を想像し続けなければなりません。「神戸空襲を忘れない～いのちと平和の碑」が、平和を希求する現在と未来の市民の一助となる事を願ってやみません。

第7回 刻銘者名簿

磯 要
今 立 隆 夫
今 立 真佐子
今 立 よ り
上 溝 妙 智
岡 チ エ
鎌 田 洋
栗 原 俊 一
越 山 トクエ

越 山 美津子
堺 井 昭 光
酒 井 一 夫
作 田 國 義
作 田 ハツコ
田 口 た つ
辻 川 松 次
西 村 伸 治
麥 秀 娟

麥 武 吉
麥 武 祥
麥 鄭代関定
羽根田 利 江
羽根田 こ ま
羽根田 好 子
廣 本 智 勇
本 田 力
本 田 美津枝

本 田 義 仁
毛 利 もとちゃん
山 村 惣 一
山 本 伊之助
山 本 紀代子
山 本 す ゑ
山 本 辰 藏
山 本 春 江
山 本 ヒサエ

神戸空襲を記録する会のあゆみ

1971年9月 畑専一郎を代表、君本昌久を事務局長とし、世話人8人で発足。

1972年3月 第1回神戸空襲犠牲者合同慰霊祭。以後、毎年開催。

1972年6月 『神戸大空襲』(のじぎく文庫)刊行。

1975年3月 慰霊碑建立(葉仙寺)。『神戸空襲体験記・総集編』(のじぎく文庫)刊行。

1977年4月 空襲戦災遺品300点収集。

1978年6月 神戸空襲死没者氏名の登録を呼びかける。犠牲者364名を登録。翌年46名追加。

1980年 代表畑専一郎逝く、君本昌久代表に。

1981年4月 神戸市立中央図書館に「戦災資料室」オープン。寄託資料868点。

1981年8月 『炎の記録』神戸空襲を記録する会10年の歩み写真集刊行。

1982年7月 記録映画「炎の証言一大空襲の記録」の完成。

1995年1月 阪神・淡路大震災。中央図書館「戦災資料室」全壊。資料は無事。

1997年3月 代表君本昌久逝く。「戦災資料室」兵庫図書館に移転。資料一部常設展示。

1997年9月 中田政子を代表に。

1999年3月 “戦跡ウォーク”開始。以後、毎年6月に実施。

1999年 小中学校からの空襲のお話し会要請増える。以後、年20校ほど訪問。

2000年7月 「第30回空襲・戦災を記録する会全国連絡会議神戸大会」神戸市立中央小学校にて開催。

2002年3月 「こうべ空襲だより」第1号発行、以後、年1回発行。

2005年8月 「写真で見る神戸大空襲戦後60年記念パネル展」と内橋克人講演会。
神戸空襲死没者名簿の届け出受付再開。

2005年12月 『神戸大空襲一戦後60年から明日へ』刊行(神戸新聞総合出版センター)。

2007年3月 神戸市に「神戸空襲死没者名簿」編纂と「神戸空襲戦災資料」永久保存の申入れ。

2009年3月 神戸空襲死没者名1050人を神戸新聞紙上に発表。反響多し。

2010年6月 神戸市に「神戸空襲死没者調査とコメント設置」について申入れ。

2010年8月 神戸市が「記録する会」の「空襲死没者名簿」に協力決める。

2011年6月 神戸市は「神戸空襲で死没された方がたの情報提供を」と47都道府県19の政令市、兵庫県下の各市町にもポスター、チラシ配布。神戸市ホームページにも掲載。

2012年1月 神戸空襲の碑建設準備会発足。

2012年4月 神戸市に神戸空襲の碑建設設計画案提出。

2012年5月 「神戸空襲を忘れない いのちと平和の碑」と決定。大倉山公園の一面に神戸空襲の碑(刻銘碑)認可される。

2012年6月 第14回戦跡ウォークにて、募金活動の開始伝える。目標額600万円。

2012年7月 神戸市の『広報紙K O B E』8月号神戸空襲特集掲載。

2012年11月 碑のサイズ大きくし、刻銘を見やすくする。募金目標を800万円に。

2012年12月 目標金額を突破。

2013年4月 神戸空襲死没者名簿の第一回刻銘分受付締め切り。

2013年6月 第15回戦跡ウォーク 90人参加 碑建設予定地の見学。

2013年8月 工事着工。

2013年8月 「神戸空襲を忘れない いのちと平和の碑」除幕式 参加者850人。

2014年1月 小学6年生が「いのちと平和の碑」で平和の歌合唱。

2014年6月 刻銘追加式 大倉山公園 200人参加。

2014年8月 「第44回空襲・戦災を記録する会全国連絡会議神戸大会」御影公会堂にて開催。

2014年11月 「神戸市文化活動功労賞」授与。

2015年5月 戦後70年企画 内橋克人講演会 730人参加。『戦後70年を抱きしめて～「再びの暗い時代を許さない」』。

2015年6月 第16回戦跡ウォーク 50人参加。

2016年6月 刻銘追加式。

2017年4月～ 戦災資料整理作業 神戸市と合同。

2017年6月 第17回戦跡ウォーク 100人参加。

2017年8月 神戸市「広報紙K O B E」8月号神戸空襲・戦跡特集。

2018年6月 刻銘追加式。

2019年6月 神戸空襲を記録する会関係資料集1「神戸から・神戸へのがみがみ一疎開児童と家族の1945年」発行。

2019年6月 第18回戦跡ウォーク 75人参加。

2019年11月 岡村隆弘を代表に。

2020年2月 市役所通路ギャラリー展示。

2020年3月 長田サルビアギャラリー展示。

2020年3月 新型コロナウイルス感染予防のため、合同慰霊祭は関係者のみで行う。

2020年5月 神戸空襲を記録する会関係資料集2「記憶をつづるー〈神戸大空襲体験記〉を次代に」発行。

2020年6月 刻銘追加式。

2021年4月 神戸空襲を記録する会関係資料集3「常設展示 空襲下の神戸一兵庫図書館戦災記念資料室から」発行。

2021年6月 前代表 中田政子逝く。

2021年8月 戦後76年企画白井勝彦氏講演会「神戸の戦争孤児の記録を残すために」。

2021年10月 第19回戦跡ウォーク 60人参加。

2022年4月 神戸空襲を記録する会関係資料集4「空襲下の神戸一日々の記録から」発行

2022年6月 刻銘追加式。

2023年6月 第20回戦跡ウォーク 50人参加。

2023年7月 シンポジウム 空襲・戦災を次世代に引き継いでいくためにー神戸空襲を記録する会のこれまでとこれから。

2023年9月 空襲戦跡ボランティアガイド養成講座開催。

2024年6月 刻銘追加式。